Journal of The Human Development Research, Minamikyushu University 2024, Vol. 14 ,53-57

報　告

令和５年度　高等学校との連携事業報告
－高城高等学校・飯野高等学校との連携の取組み－

宮内　　孝
園田　博一
本田　和也
藤本　朋美
早川　純子

南九州大学は、平成 29 年３月に宮崎県立高城高等学校と、令４年２月に宮崎県立飯野高等学校と連携協定を締結した。この協定に基づいて、人間発達学部子ども教育学科は、当該生徒へのサポート活動を実施している。

このサポート活動のことを高城高校では「ナタ･サポ」と呼んでいる。「ナタ」とは、南九州大学を南 (ナ) 大 (タ) と呼び、「サポ」とはサポートを意味する。飯野高校では「ナンかイイね」と呼んでいる。「ナン」とは南九州大の南 (ナン)、「イイ」は飯野高校の飯 (イイ) を意味する。

この２つの高校で実施したサポート活動について、以下報告する。

１．宮崎県立高城高等学校との連携

高城高等学校へは、生徒が取り組む課題研究、特に保育分野の「ナタ・サポ」に取り組んで７年目となる。

本年度は、本学科教員が下記の２つの内容についてした。

１）保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指した学習支援

２）「ちびっこ運動会」の企画・運営のための学習支援

本稿では、このサポートの概要について報告する。

１）保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指したサポート

保育分野において必要な、表現リズム、造形、言語表現の知識や技術習得を意図とした学習支援である。具体的には、下記の目的が高校から示された。

〇衣食住・保育等のスペシャリスト育成のため、学習の高度化を図った学習に取り組む。具体的には、保育検定の分野にもなっている表現リズム、造形、言語表現などに関する実技指導の充実を図る。

〇大学と連携をした授業を展開することで、より専門性の高い学習へ興味関心がわき、将来、大学に進学し、地域貢献できる人材育成に繋げる。

このような目標達成に向けて、本学科教員が下記の講義を行った。

(1) 造　形　　担当：園田　博一

◇日　　時：令和５年　６月２３日（金）
　　13 時 30 分～１４時 40 分
◇対　　象：３年生：５名（男子２名を含む）
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容：「保育における表現」
　　～表現のひろがり～

今年度は５名の生徒さんが受講した。前年より減少して残念である。受講者が増えることを願っている。保育における５領域を説明し、造形表現の位置づけを解説した。「表現」は「目に見えない心の内部を外部にあらわし、出す」ことで、「表現」には、表現する行為である「表し」と、表現されたものである「現れ」の両方の意味がある。表に出てくるものではなく。現れるまでの「過程」に注目したい。作品の出来だけに心を奪われてはいけない。と注意を促した。

実技演習として、水絵の具を使った三原色の混色を、ペットボトルに仕込んだ絵の具による色水を使って混色の面白さを実験的に披露した。単純な色の変化に生徒の驚きと発見があった。また、フィンガーペインティングの実践も行った。初めてという生徒も多く、絵の具の質感、触感を使った表現を体験ができたかと思う。その後、紙コップを使った立体的造形を行った。個人で作ったものを、集合体として一つにして大きな作品に仕上

げた。個から集合体へ、力を合わせること（共同性）の楽しさを体験してもらった。今後も多様な表現素材を準備し、多くの体験をしてほしいと願っている。今回は大学生３名のサポートがあり、運営がスムーズであった。高城高校の卒業生も含まれ、親近感もあり和やかに運営できた。

(2) 表現リズム　担当：早川　純子

◇日　時：

① 令和５年５月12日㈮ 16時00分～17時00分
② 令和５年５月26日㈮ 15時15分～16時30分
③ 令和５年６月９日㈮ 15時15分～16時30分
④ 令和５年７月10日㈪ 13時15分～14時55分
⑤ 令和５年９月15日㈮ 15時15分～16時45分
⑥ 令和５年10月20日㈮ 15時15分～16時00分
⑦ 令和５年11月17日㈮ 15時15分～16時00分
⑧ 令和５年12月8日㈮ 15時15分～16時30分

◇対　象：２年生・３年生 (保育検定受験者)

◇場　所：高城高等学校（家庭科実習室）

◇講座内容

今年度も、保育検定試験の受験を控える生徒に向けて試験対策の指導を行なった。全国高校家庭科教育振興会が主催する検定試験には、食物調理、和服、洋服、保育の４つの部門が存在するが、報告者が担当する音楽は「保育」に分類される。「音楽」は筆記試験と実技試験の２分野で構成され、前者が楽典、後者は級位によってピアノソロもしくは弾き歌いが対象となる。ナタ・サポの取り組みの中では、音楽の授業を８回実施したが、そのうち４回は筆記試験の対策、あとの４回は実技試験対策に充てた。なお、後者のピアノ実技対策では、同校卒業生で本学４年の中満暁さんが、後輩の指導に協力してくれた（写真）。母校での教育支援に快く応じてくれた姿勢に感謝したい。

筆記試験の内容は、音楽大学の入試レベルに迫るほど難易度が高い。例えば、最高位である１級の試験内容には次のような項目が含まれる。各設問は、抜粋された子どもの歌の楽譜に基づいて出題される。

「曲名」

メロディーの一部から、曲名を判断するためには、子どもの歌に関する豊富なレパートリーと読譜力が求められる。

「拍子」

単位となる音符を判別し、その音符が１小節内に何回現れるかを数える作業が必要となる。特に、８分音符を単位とする拍子の判断に難しさを感じる傾向がある。

「主要三和音」

まず、調号や臨時記号から調を判定し、それに

基づいて主和音、属和音、下属和音を判断することが求められる。これは最も高度な和声の知識が必要な内容と言える。

「指定音の音名（固定ド）」

調号や臨時記号を見落とさずに音名を判断する必要がある。

「音程」

長短系か完全系かを判定した後、半音の数や調号・臨時記号に注意して正確な音程を判断する必要がある。

「楽語や記号」

様々な楽語や記号を適切に覚えておく必要がある。

以上のように、音符や拍子などの基礎的な要素に加え、調性や音程、和声といった高度な内容を含んだ多岐にわたる項目が学習対象となっている。通常ならば、各項目に充分な時間をかけるべきだが、時間的な制約の中で生徒たちは集中して学習に取り組み、納得するまで積極的に質問し、理解を確実に定着させていた。

１級のピアノ実技課題曲は、子どもの歌の弾き歌いである。保育現場で一般的に使用される簡易伴奏版ではなく、原曲に取り組むことが求められている。原曲版は、弾きやすさよりも芸術性が強調され、難易度が高い。ピアノにおいては個々の努力が大きな影響を与えるが、受講者たちは真剣に自主練習を積み重ね、確実に技術を向上させていた。全員が高い意欲をもって着実に努力し、理解も迅速だった。個人レッスンでは、一人ひとりの特性や強みを見極めながら、実力を引き出せるよう心掛けた。一方で、課題に対処するだけでなく、楽曲に対する深い理解や表現力の向上も目指すべきだったが、そのためにはより多くの時間が必要であった。今後も彼らが音楽の実践に取り組み、実力を磨いていくことを期待したい。

(3) 言　語　　担当：藤本　朋美

◇日　　時：

第１回　令和５年５月26日㈮

第２回　令和５年６月16日㈮

いずれも13時20分～15時00分

◇対　　象：３年生

◇場　　所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：

第１回　言葉を育てる遊び

＜ねらい＞

①保育・幼児教育においてなぜ「絵本」が重要とされるのか、その意味について考える。

②絵本の読み聞かせを行い、その留意点を知る。

第２回　子どもの育ちとお話

＜ねらい＞

①「絵本」や「お話」を通して子どもたちに何が育つのかを考える。

②オノマトペを用いてイメージを楽しむ経験について考える。

講座は、実際に絵本に触れながら演習形式で行った。『ぐりとぐら』のように長年読み継がれている絵本をはじめ 20 冊程度の絵本を持参した。今年度は、ななめプロジェクトの一環として本学科４年生２名（ともに高城高等学校出身、保育者志望）がサポーターとして参加し、読み聞かせや手袋シアターの実演、高校生に対するアドバイス等を行った。

第１回は、絵本の意義のほか児童文化財についても触れ、子どもたちの身の回りにある遊びについて解説を行った。読み聞かせ演習では例年、高校生の緊張がほぐれるまでに時間がかかるが、今年度は大学生サポーターの手袋シアター及び読み聞かせの実演からスタートしたことで、和やかで明るい雰囲気のもと行うことができた。読み聞かせの留意点についての質疑応答・助言の場面では、自由に発言し合い学び合うという姿が見られた。高校生にとって大学生サポーターは、気軽に話せる先輩であり、自身の少し先の未来の姿を投影できる存在である。こうした「ななめ」の関係での学び合いを今後も展開していきたい。

第２回は、自分の好きなお話のあらすじをわかりやすく伝える演習と、オノマトペを用いてイメージを楽しむ演習を行った。言葉の「音」からどのようなイメージを抱くのか互いの共通点や相

違点を楽しむことをきっかけに、自身の言語感覚を知り、言葉を意識して使うことへの展開をねらっての活動である。言葉が子どもたちに与える影響について考えながら、同時に自身の言葉との向き合い方を考えることのできる活動を今後も計画していきたい。

◇「企業・郷土探究」講習会
日　　時：令和５年７月７日㈮
　　13時30分～15時30分
対　　象：１年生　40名
場　　所：南九州大学
講座内容：言葉を育てる

「企業・郷土探究」の一環として、高校１年生に向けて講演を行った。「伝え合い」において言葉がどのような力をもっているのかについて考えることをねらいとし、言葉に関するワークショップを行った。ワークショップを通して、次に示す言葉の力を体感することを目指した。

①言葉での表現がコミュニケーションを支えている。しかし一方で非言語の力も大きい。
②人は、言葉によって世界の見え方、捉え方を変えることができる。
③語彙が増えると世界を見る目が詳しくなる。

高校生自身が、「言葉」や、言葉を用いた「伝え合い」について考え、楽しめる話題を今後も提供していきたい。

２）「ちびっこ運動会」の企画・運営のためのサポート

担当：宮内　孝

「ちびっこ運動会」とは、生活情報科２年生の生徒が高城幼稚園児を招待して実施する運動会のことである。この運動会の企画運営に取り組む生徒への３つのサポートを実施した。

(1)「ちびっ子運動会」開催に向けてのワークショップ

◇日　　時：令和５年７月３日㈪
　　13時20分～14時５分
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などについて実技を交えて行った。運動会種目については、年長児にとって、簡単でしかも勝敗が明確にわかる運動遊びを紹介した。

また、高校生を幼児と見立てて実技をするなかで、子どもへの指示・説明のあり方について指導した。

(2)「ちびっ子運動会」参観

◇日　　時：令和５年11月９日㈭
　　10時00分～11時30分
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容

「ちびっ子運動会」に参加して、運動種目の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

(3)「ちびっ子運動会」活動のまとめ

◇日　　時：令和５年11月16㈭
　　８時40分～９時25分
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容

「ちびっ子運動会」の振り返りとして、運動会で取り上げた種目内容のよさについて解説した。また、「効率的なマネジメント」の視点で、準備・進行・説明・指示や子どもへのかかわり方のよさについて解説した。

このような生徒が行った計画・運営等のよさを肯定しそして意味づけをすることで、生徒の達成感を高めたり、自己肯定感を高めたりする契機となったようである。

(4) 子ども教育学科の学生による支援

高城高校出身学生を中心にした５名のがくせいからなる「高城高校支援チーム」をつくった。この支援チームは、６月実施の「高城幼稚園との交流会」に向けての準備へのアドバイスを高校生に行った。また、「ちびっこ運動会」の準備や運動会実施後の報告会においても、アドバイスや感想を高校生に提供した。

高校生からは、年齢的に近い学生からのアドバイスでもあり極めて好評であった。また、アドバイスをした学生にとっては、大学での学びを活用してわかりやすく伝える取組みをすることで、自己の学びを深めたり保育観や教育観を振り返ったりするよい機会となった。

３）「ナタ・サポ」を振り返って

この取組みをスタートして、７年が経過した。この７年間の取組みによって、円滑に本事業が運営できるようになった。

生徒にとっては、専門家による指導が受けられることもあって、当該生徒たちは本事業を肯定的に受け入れているようである。

今後は、７年間の取組みの成果を省察して、本事業の充実を図るとともに、学生の参画もさらに充実させたい。

２．宮崎県立飯野高等学校との連携

本年度は、飯野高等学校での「ナンかイイね」の２年目であった。本学科教員は、下記の３つのサポートを実施した。

１）子育て支援イベント (運動会) 企画・運営のための学習支援

２)「子どもの発達と保育」の学習支援

３)「生活産業基礎」の学習支援

このサポートの概要について、下記に報告する。

１）子育て支援イベント企画・運営のための学習支援　　担当：宮内　孝

(1) 運動会開催に向けてのワークショップ

◇日　　時：令和５年５月19日㈮
　　13時20分～14時30分

◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校

◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などをテーマとした実技指導を実施した。子ども教育学科の学生は、高校生に指導・助言を行った。学生にとっては、貴重な学びの機会となった。

(2)「運動会」参観と振り返り

◇日　　時：令和５年９月20日㈬
　　13時30分～15時30分

◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校

◇講座内容

「運動会」に参加して、運動種目の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

運動会終了後、運動会で取り上げた種目内容のよさについて、運動学的な立場で解説した。また、効率的なマネジメントのよさについてもふれた。

生徒が実施した活動のよさを肯定し、そして意味づけを図るようにして、生徒の達成感や自己肯定感が高まるように努めた。

２)「子どもの発達と保育」の学習支援

担当　本田　和也

●子どもの心の育ちの講義

◇日　　時：令和５年12月20日㈬
　　10時50分～12時40分

◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校

◇講座内容

子どもが他者の心の存在に気付くためには，心の理論の獲得が必須である。その基盤となるものは共同注意である。共同注意の形成には大人のかかわりが重要となる。どのようなかかわりが有効かについての講義を行った。

３)「ナンかイイね」を振り返って

飯野高等学校との２年目の連携事業を終えることができた。この連携による生徒の学びの様子を確認しながら、次年度の取組みを計画していきたい。さらには、保育士・幼稚園教諭への職業選択を生徒に促し、当該地域の保育士不足・教員不足の課題解決に寄与できるような連携を検討する。